

こちらに記載されている事業は、

競輪の補助金により実施した事業の一覧です。

補助事業名：平成21年度 自転車競技の振興・育成

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

我が国における自転車競技を統轄し、代表する団体として、自転車競技の普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

(2) 実施内容

国内競技大会事業

[全日本選手権トラックレース](#)：10月17～18日

(山梨県境川自転車競技場) 男子45名、女子21名参加



女子スプリント決勝1位 前田佳代乃
兵庫 鹿屋体育大学



男子スプリント決勝1位 深谷 知広
強化 JPCA/JPCU 愛知

[全日本選手権エリートロードレース](#)：6月28日

(広島県中央森林公園コース) 男子103名、女子47名参加

[全日本選手権タイムトライアルロードレース大会](#)：6月14日

(秋田県大潟村ソーラースポーツライン) 男子34名、女子14名



全日本選手権タイムトライアルロードレース大会

[ジュニア全日本選手権ロードレース大会](#)：6月27日
(広島県中央森林公園コース) 男子 167名、



[全日本室内競技選手権大会](#)：12月12～13日
(滋賀県草津市民体育館) 男子 59名、女子 4名

[全日本マウンテンバイク選手権大会](#)：7月18～20日
(長野県富士見パノラマリゾート) 男子 355名、女子 32名



DHI 女子 1位 未政 実緒
兵庫 FUNFANCY/INTENSE 3:31.357



DHI エリート男子 1位 向原 健司
大阪 Team Ikuzawa 3:07.457



4X 男子 1位 永田 隼也
神奈川 FFC/INTENSE 42.356



XC0 マスター (12.6km) 1位 合田正之
埼玉 サイクルクラブ 3UP 56:07.96

[全日本シクロクロス選手権大会](#)：12月13日
(石川県金沢市キゴ山) 男子54名、女子12名



女子1位 豊岡 英子
大 阪 パナソニックレディース 43:05



男子1位 辻浦 圭一
奈 良 チームブリヂストン・アンカー

[全日本BMX選手権大会](#)：5月3日
(岡山県笠岡市太陽の広場) 男子158名、女子20名



[全日本アマチュア自転車競技選手権大会](#)6月6~7日、27日
トラック(山口県防府競輪場) 男子104名、女子22名
ロード(広島県中央森林公園コース) 男子69名、



トラック 女子ポイントレース



トラック 男子ケイリン

[JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会](#)：6月6~7日
(山口県防府競輪場) 男子93名、女子24名



[全国都道府県対抗自転車競技大会](#)：8月16～18日

トラック（秋田県六郷自転車競技場）

ロード（秋田県大潟村ソーラースポーツライン）男子 150 名、女子
38 名

国内での国際競技大会事業

[ジャパンカップロードレース大会](#)：10月25日

（栃木県宇都宮市森林公園周回コース）男子 63 名



オープン男子（80.8km）1位 大塚 潤
静岡 2:08:25



エリート 1位 SORENSEN, Chris Anker
4:06:19

[2009 山鹿国際ロードレース](#)：11月15日

（熊本県山鹿市）男子 71 名



1位 中島 康晴 EQA-MEITAN
HOMPO-GRAPHITE DESIGN 4:28:55

[TOUR DE・熊野](#)：5月28～31日、男子 277 名、女子 8 名

国際競技大会事業

世界選手権大会派遣

トラック : 3月24~28日、デンマーク・コペンハーゲン7名



男子チームスプリント 10位 日本チーム
(新田・渡邊・浅井) 45秒136



男子スクラッチ (15km)
3位 盛 一大 JPN



男子オムニアム 18位 盛 一大
JPN (愛知・愛三工業レーシングチーム)

ロード : 9月23~27日、スイス・メンドリジヨ6名



マウンテンバイク : 8月30~9月6日、オーストラリア・キャンベラ 15名



クロスカンントリー・男子 U23(38.82km)



クロスカンントリー・女子エリート (32.35km)

[BMX](#) : 7月24~26日、オーストラリア・アデレード、7名
[ジュニアロード](#) : 8月7~9日、ロシア・モスクワ



世界ジュニア選手権 ロード

アジア自転車競技選手権大会派遣事業

[トラック・ロード](#) 8月14~20日、インドネシア・カリマンタン
23名

[MTBアジア選手権自転車競技大会](#) : 11月5~8日
マレーシア・メラカ 10名



その他国際大会選手派遣事業

ワールドカップ

[第1戦](#) : 10月30~11月1日、イギリス・マンチェスター、6名

[第2戦](#) : 11月19~21日、オーストラリア・メルボルン、5名

[第3戦](#) : 12月10~12日、コロンビア・カリ、3名

[第4戦](#) : 1月22~24日、中国・北京、8名



トラックワールドカップ第4戦(北京)

2009 年国際グランプリケイリン派遣事業

インターナショナルケイリンイベント 11 月 1 日

イギリス・マンチェスター、7 名

[第 15 回日韓対抗学生自転車競技大会](#) 11 月 2 日

(大韓民国全州市) 15 名

[ACCトラックアジアカップ 2009](#) : 10 月 10 ~ 11 日

タイ・バンコク 8 名

[加盟団体事業](#)

都道府県車連事業

地域別競技大会 (トラック 457 名・ロード 683 名) 各 8 地区、

県別選手権大会 : 47 都道府県で実施

日本プロフェッショナルサイクリスト協会事業

第 58 回全プロ選手権大会 : [花月園競輪場](#) 5 月 17 日、男子 174 名

[BMX](#) : 11 月 8 日、日本CSC、49 名

地区プロ : 10 月 3、22 日、全国 8 地区、701 名



全プロ 1kmT.T



全プロ ケイリン

全国高等学校体育連盟事業

[全国高校選抜自転車競技大会](#) : 3 月 24 ~ 27 日、

(北九州メディアドーム他) 男子 302 名、女子 28 名



2 kmインディヴィデュアル・パーシュート

<女子> 1 位 中村 友香 奈良北 奈良

2 分 44 秒 420



高校自転車競技選手全国合宿 : 7 月 19 ~ 12 月 27 日

全国 8 地区で実施、男子 464 名、女子 55 名

日本学生自転車競技連盟事業(全日本学生選手権自転車競技大会他3大会) 男子815名、女子57名



全日本学生選手権個人ロードレース大会

全日本実業団自転車競技連盟事業(全日本実業団対抗ロード大会他6大会) 男子2,202名、女子142名



実業団選手権 500mT:T1位 石井 寛子
Super-K Athlete Lab. 39.223



実業団選手権チームスプリント
1位 マットベローチェ ARIAKE 1:21.809

強化普及事業

選手強化事業(国内トラック・海外トラック、ジュニア強化、女子競技者強化合宿等全21回実施、計304名参加)



ジュニアロード合宿(11月13日~15日)



ジュニアトラック合宿(12月11日~13日)



トラック短距離選手強化合宿
(1月8日~19日)



トラック強化合宿(2月11日~14日)

全国自転車競技指導担当者研修会(大阪府 AP 大阪) 11 名
1 級公認審判員講習会(秋田県、千葉県幕張) 11 名参加

自転車競技の普及・広報事業

ケイリン種目等指導普及事業: 加盟 40 団体にて実施

広報誌の発行、計 10 回発行: 各回 4,500 部印刷、配布

広報誌シクリスム・エコー

[No.158](#) 、 [No.159](#) 、 [No.160](#) 、 [No.161](#) 、 [No.162](#) 、
[No.163](#) 、 [No.164](#) 、 [No.165](#) 、 [No.166](#) 、 [No.167](#)

[チャレンジサイクル・ロードレース](#) (静岡県CSC) 839 名、



自転車競技に関する調査研究事業

各種委員会 17 回開催

2012 年トラック世界自転車競技選手権大会招致事業

未実施

2. 予想される事業実施効果

国内競技大会事業

本事業の実施により、登録者の練習成果の最高峰の場として、かつ予め定められた開催要項に基づき公正かつ安全な各種目の全日本選手権等を提供するとともに、海外派遣の選手選考の一助とするべく効率的な開催をすることにより、自転車競技の普及に寄与する。

国内での国際競技大会事業

本事業の実施により、海外からのトップアスリートを呼び、高度かつ円熟したパフォーマンスを披露することにより、連盟登録者に対する刺激に加え、観客等一般の人達に対し競技の魅力を全国に発信することにより、自転車競技の普及促進を図る。

国際競技大会事業

連盟の選手強化は、オリンピック、世界選手権大会を頂点とする国際大会で世界に伍して戦うため、優秀な指導者・スタッフの下、年間を通しての計画的・科学的なトレーニングが不可欠であるとともに、海外での国際大会の経験を重ねることが必要である。

このことを前提に本事業の実施により、強化指定選手をはじめとした連盟スタッフの強化、ひいては将来的な自転車競技の普及・振興につながる。

加盟団体事業

競技の底辺を支える全国 47 都道府県車連において、それぞれの地元の実情に合わせて計画した事業の実施を通じて、自転車競技の普及を図ることにより、1 名でも多くの登録者の増加を目指す。

また、高体連、学連、実業団にあっては、将来の日本代表に育つであろう若手の育成を目的とするものであり、1 名でも多くのエリート強化指定選手が生まれることを目指す。

プロ協会にあっては、競輪選手を中心に特にトラック競技への参加を促すことにより、レベルアップを図る。

強化普及事業

本事業の実施により、オリンピック、世界選手権大会を頂点とする国際大会で世界に伍して戦うこととなり、将来的な自転車競技の普及・振興につながるものである。

北京オリンピックでの実績、経験を踏まえ、4 年後のロンドンオリンピックに向け、より一層の強化に努めることとしたい。

全国自転車競技指導担当者研修会・審判員講習会の開催については、自転車競技の向上において、競技力及び審判技術の向上は欠かせないため、最新の情報収集を行う。

また、チャレンジサイクルロードレース等の大会においては、広い世代に競技の楽しさをアピールし、競技の普及と登録者拡大を目指す。

広報関係では一般の方やファン層に向けた宣伝や観客動員を意識し PR 対策、メディアに対しても広報活動を実施していく。

自転車競技に関する調査研究事業

本事業の実施により、前記各事業の円滑な遂行を図ると共に

アジアカップ・トラックレース大会事業

本事業の実施により、国際競技大会事業と同様の効果を予測する。

3. 本事業により作成した印刷物

以下の大会プログラム

- (1) 全日本選手権トラックレース：200 部
- (2) 全日本選手権エリートロードレース、全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロード、ジュニア全日本選手権ロードレース大会：700 部
- (3) 全日本選手権タイムトライアルロードレース大会：200 部
- (4) 全日本マウンテンバイク選手権大会：600 部
- (5) 全日本室内競技選手権大会：200 部
- (6) 全日本シクロクロス選手権大会：200 部
- (7) 全日本アマチュア自転車競技選手権大会、JOC ジュニアオリンピックカップ自転車競技大会：700 部
- (8) 全国高校選抜自転車競技大会：800 部
- (9) 全日本学生選手権自転車競技大会：350 部
- (10) 全日本大学対抗自転車競技大会：550 部
- (11) 全日本学生選手権チームロード大会：400 部
- (12) 全日本学生選手権個人ロードレース大会：300 部
- (13) 全日本実業団対抗サイクルロードレース大会：800 部
- (14) 全日本実業団：500 部
- (15) 全日本実業団東日本自転車競技大会：1,040 部
- (16) 全日本実業団西日本自転車競技大会：1,040 部
- (17) 全日本実業団東日本サイクルロードレース大会：500 部
- (18) 全日本実業団西日本サイクルロードレース大会：500 部
- (19) 全日本実業団サイクルロードレース in 石川大会：500 部
- (20) 全日本チーム対抗自転車競技大会：200 部
- (21) チャレンジサイクルロードレース(大会記録集)：450 部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名：財団法人日本自転車競技連盟

(ザイダンホウジン ニホンジテンシャキョウギレンメイ)

住 所：107-0052 東京都渋谷区神南 1 - 1 - 1

代表社名：理事長 岩楯 昭一 (イワダテ ショウイチ)

担当部署：

担当者名：総務部長 山崎 史郎

電話番号：03 - 3582 - 3713

F A X：03 - 5561 - 0508

E-mail：info@jcf.or.jp

U R L：<http://www.jcf.or.jp/>